

## 短 信

# 会長短信

政 志 郎

会員の皆様にはお変わりございませんか？

昨年は東海・関西での優勝、新人戦も優勝という久し振りに見事な戦績を挙げてくれました。ここ数年部員数も増え、資質のある現役も増加しつつあり、早い時期に実績を挙げてくれることを期待しておりました。現役の諸君はこれに驕ることなく練習に精進し全国制覇に向って下さい。

母校も少子社会への対応を含め、学部を増設、小学校2校の開設、スポーツユニオンも各部の横の連携強化、青年幹事会の発足等、大学の発展に呼応して組織強化をし、若い力を活用して体質若返りの構造改革をすすめています。同志社大学体育会会員憲章、同志社スポーツユニオンの活動方針・クラブの三原則が出されましたので、本誌巻末を参照願います。

学生コンプライアンス(法令順守)も事あるごとに注意喚起されています。監督・コーチを初めとして、現役学生には社会規範を尊重し、人としての尊厳を逸することの無い社会人として行動するよう指導しております。

75周年記念事業は新庄委員長が中心となり、構想段階から行動段階に進展して参りました。現役がハウストレーラーを新規調達、新機体も発注し7月頃には耐空検査を受け、命名式、初飛行もカウントダウンする時期となりました。

会員の皆様にご無理を言っております寄付金、記念事業として新機体は部員の技量向上に直結し、高性能機で高技量を持った部員が天高く飛翔する姿を楽しみに委員の方々が持場・立場で頑張ってくださいいております。是非ともご理解賜り、一人でも多くの会員の賛同を頂ますようお願い致します。

私も6年間会長をさせて頂いていますが、昨今

のスポーツユニオンの改革には大いに賛同しているものの、各部役員の若返り感性に追従出来なく感じています。75周年記念事業の最中であり、敵前逃亡はしませんが、ここ数年内に翔友会組織の改革と人心一新を行い、ユニオンの改革に同調して若い世代に引き継ぎ、翔友会活性化と益々の発展を願っています。

## 部長短信

山口博司

### 挑むということ

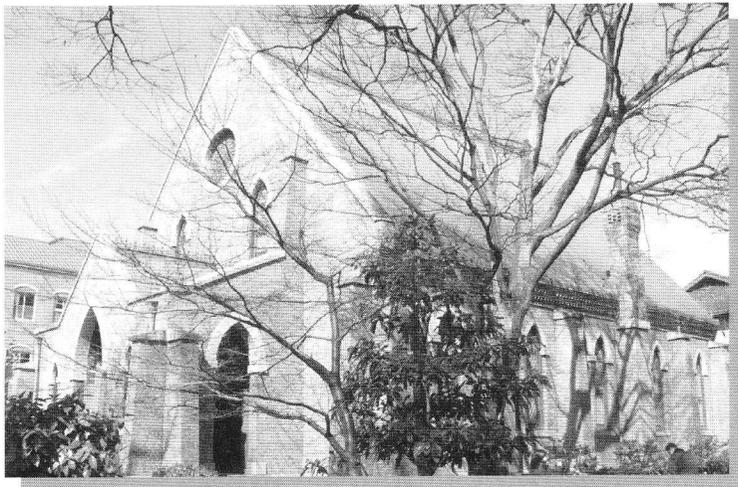
戦績が向上し、新機体導入に目処がつき、嬉しい話題が聞こえるようになりました。また、部員を見ていると、随分と生き生きとしていることに気づきます。航空部の組織、まだまだ十分とは言えない所が多々ありますが、徐々に充実して来ていることは間違いありません。いわゆる、部全体が上げ潮に乗って来た感がいたします。

グライダーは、他に類を見ない総合スポーツです。すなわち、個人競技的な特長を持つスポーツでありながら、実はグループスポーツの要素が非常に大きい。また、他と比べると、訓練と競技に大変な規模と費用を必要とするスポーツであります。これは、優秀な戦績を残すためには、優秀な機材とそれに見合った優秀な人的資源が必要となることに他ありません。

この事を考えると、今回の新機体購入は、今後の航空部の発展に繋がる一大出来事であることは間違いありません。今回の新機体購入に際し、一方ならぬ労をお取り頂きました、監督・コーチ、翔友会OB・OG諸氏、に厚く御礼を申し上げます。

最高の監督・コーチまた新機体を得た航空部の仕事は、「挑む」ことであります。部員はこれから、大きい期待を背負い、重圧に耐えて、諸戦を戦っていくことになりましょう。これからが本当の戦いの始まりであると思います。すぐに、日本の空は同志社の空になります。

今年度も、航空部への皆様方の暖かいご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



## 監督短信

森 川 泰

もう既に皆さんがご承知の様に、平成20年度の同志社航空部の活動は、4年生の重田君、岩井君の活躍により全国大会で団体、個人共に6位入賞という結果で無事に幕を下ろすことが出来ました。私の知る限り、全国大会が現在の速度競技になってから団体6位入賞は初めてのことで、個人6位も平成7年卒の花井君の4位に次ぐものです。もちろん、結果はともかく3年生の入江さん、2年生の竹山君のチームも頑張ってくれました。もしああしていれば、もしこうだったら、もっと上位に入れたかもしれない、という思いもあるかもしれませんが、現実の結果を素直に受け止め、喜び、来年に向けて更なる飛躍を誓ってもらいたいと思います。

今年度の一年を振り返ると、学生が頑張った良い結果を残してくれた一年でした。夏の同立戦の勝利を皮切りに各競技会で結果を残してくれました。新人戦の団体3位、個人3位も竹山君、川又さんが頑張ってくれた結果であり、全国レベルの大会での結果ですので胸を張っていいと思います。学生達は自校の合宿のみならず、他大学の合宿にも積極的に参加し、海外や北海道などへも遠征しました。東海関西競技会で優勝した重田君は東海関西地区の学連OB有志の方々などの援助で、入江さんは翔友会の援助でオーストラリアへ遠征しました。ご支援頂いた多くの方にはこの場をお借りしてお礼を申し上げます。また、フライト以外でも、所有機の耐空検査、Ka6Eの復活、ハウストレーラーの導入など、今年度は大忙しの一年でありましたが、学生の頑張りや整備士の方の協力などにより乗り切ることが出来ました。来年度も、待望の新機体が入って来るなど、忙しい一年となりそうですが、引き続き学生全員で取り組んでもらいたいです。

これを皆さんが読まれる頃には多くの新入生を

迎えて、クラブ活動を活発に行っていることと思います。最近では部員数も30名程度を維持出来ており、活動の内容も充実して来ています。これからは学生のみならずOBの皆様も含めてオール同志社で大きな目標に向かって行きたいと思っていますので、今後もOBの皆様のご協力を宜しくお願い致します。また、学生は特定の個人の頑張りには頼ることなく、下級生から上級生まで全員がチームワークを大切にして、全ての事に当たって下さい。より強力なチームワークこそが今のクラブには必要です。きっと主将がリーダーシップを発揮してクラブを纏め上げてくれることと期待しています。

さて、来年度は75周年事業の一環として新機体の導入が行われます。この機体は他校の機体に負けないスタンダードクラスの新鋭機です。この機体を駆使して学生が全国大会で活躍してくれると思いますので、ご期待下さい。学生諸君はこの新機体に乗ること、乗りこなして競技会で勝つことを目標に頑張ってください。多くの人の期待が掛かっています。その一方で、新機体はKa6Eの後継機として導入しますので、Ka6Eをどうするかを考えなければいけません。折角復活させたのにこのまま引退させてしまうのは残念な気がしてなりません。個人的には、例えばOBがグループオーナーとなって飛行可能な状態で活用出来ないかなどと思っています。皆さんはどう思われるでしょうか。ご意見をお聞かせ頂ければ幸いです。

現在、学連の改革など航空部の学生を取り巻く環境は厳しさを増していますが、航空部の歴史を絶やさぬ様、空を飛ばたいと思う学生の思いを潰さぬ様、みんなでこの状況に立ち向かって行かねばなりません。私も監督として、一OBとして貢献して行きたいと考えていますので、宜しくお願い致します。